2025年 名大進学模試 講評

小論文

（1）原稿用紙の使い方について

今回の答案では，問1・2・3いずれにおいても，一般的な原稿用紙の使い方を無視したものが見受けられた。小論文は，現代文などの「〇〇字で答えなさい」というような答案とは異なり，「文章」を作成して答えるものである。いかなる場合においても，一般的な原稿用紙の使い方を守って，「文章」として答案を作成するようにしたい。

名大の小論文の試験は，表紙に「1ますに1字ずつ書きなさい（句読点もそれぞれ1字に数えます)。」という注意書きがある。今回の名大進学模試でも，この注意書きにならっているが，この注意書きを誤解しないようにしたい。この注意書きは，一般的な原稿用紙の使い方に反するものではない。一般的な原稿用紙の使い方では，句読点や閉じかぎかっこなどの記号が行頭に来た場合は，前の行の行末の文字に添える（もしくはます目の外に出して添える)。この注意書きの「1ますに1字ずつ書きなさい。」は，表記の上での原則であり，一般的な原稿用紙の使い方を無視して，句読点や閉じかぎかっこを行頭に出せというものではない。そのようにして書く「小論文」は存在しないと思ってよい。これについては，誤解のないように注意してほしい。

ただし，字数については注意が必要である。一般的な原稿用紙の使い方に従って，行末の1ますに文字と句読点などの記号を一緒に書き入れた場合は，「(句読点もそれぞれ1字に数えます)」という注意書き通り，この1ますで2字をカウントすることになる。この注意書きの大きなポイントはここにある。そのような場合には，うっかり，最終のます目までいっぱいに文章を書かないように注意したい。指定文字数を超えてしまうからである。行末に句読点などの記号を添えた（もしくは，はみ出させた）場合には，その句読点・記号を文字数として数えることを忘れないように注意したい。

（2）段落設定について

問1・問2については，字数が少なく，それぞれ，単一の内容について回答する設問なので，特に段落設定は要求しない。また，複数の段落を設定していない場合には，書き始めを1字空けていても，そうでなくても，どちらでも可とした。

問3については，3段落構成が望ましい。後述する「初め（序論）―なか（本論）―終わり（結論)」というシンプルな論理構成に合致するからである。文章における段落は，だいたい200字程度が望ましいとされる。指定字数が500～600字である今回の問3では，やはり3段落構成が望ましいのである。

（3）論理構成について

今回の評価では，論理性（どのような論理によって論述しているか）を重視した。小論文における論理性は，シンプルで明快なほうがよい。論点，つまり問われていることに対する答案の骨子を，わかりやすく示すためである。シンプルな論理構成とは，「初め（序論）―なか（本論）―終わり（結論)」のような構成である。限られた時間内で論述しなければならない試験では，オリジナルで複雑な構成など不要である。設問によっては，「賛成か反対か答えた後に，その理由を答えよ」のように，設問条件によって構

成を限定されてしまうこともあるが，可能なら，オーソドックスで単純な構成で書くほうがよい。

また，問１・問２は，問３に比べると少ない字数で説明する設問であったが，このような設問では，単純明快な文，または文章で書く必要がある。そうでないと，設問内容を正しく理解できていることがアピールできない。そのためには，単語や文節，または文の関係性が曖昧にならないように，接続語・接続助詞を正しく用いて記述する必要がある。その積み重ねがシンプルで明快な論理構成につながるのである。

今回の答案で多く見受けられた，わかりにくかった論理構造の例として，「渋滞している因果関係の論理」を挙げておきたい。それは，「だから～」「～ので」「～から」などの原因・理由を表す表現がつながりすぎている論理構造のことである。原因・理由を表す表現を短い文章の中でつなぎすぎると，因果関係が連続してしまうことになる。すると結局，その文において，何が原因・理由で，何が結果なのかが分かりにくくなる。つまりは，何が言いたいのかわからない文になる。また，このような論理構造は，循環論法になりやすい。循環論法とは，原因・理由と結果が同じになってしまう，誤った論理構造である（例・寒い朝だから，温かいスープがおいしいから，やはり今朝は寒いのだ。）。そして，このような論理構造の文は，一文が長くなりがちで，主・述の関係も乱れやすくなる。小論文の文章は，なるべくシンプルな論理構造で，なるべく短い文で書き連ねていくのがよいのである。

問１・問２

どちらの設問についても，具体的すぎる答案が目立った。問１も問２も，「ネット選挙の解禁以降」の有権者と政党や候補者たちの行動に関して論述するものなので，具体的な行動に触れざるをえないが，あまりに具体的すぎると，論述内容がまとまらなくなる。設問の指定字数を有効に利用するためには，まず，論述の軸となる骨子をまとめることが大切である。しかし，具体的すぎる答案には，その骨子が感じられないものが多い。あらかじめ骨子を検討せずに，解答欄の一マス目から書き出しているのではないかと見受けられる。ただ思いつく具体的な事項を書き連ねるのではなく，設問内容に対する解答を，なるべく一般化した骨子をまとめるようにしよう。しっかりと骨子をまとめる時間をとったほうが，結果的に時間の節約になる。

文章の内容については，近年，話題になっている事象についての文章であり，比較的，興味を持っている内容だったようで，大きく踏み外している答案は少なかった。

問３

指定字数 500～600 字を守って論述した答案は，全体の 48%だった。指定字数を守り，かつ段落に分けて論理的に論述している答案は，全体の 15%だった。この 15%の答案だけが，採点に値する答案である。それ以外の答案は，実際の入試であれば，１点ももらえない可能性が高い。

【500～600 字で段落分けした答案の講評】

おおむね，よく書けていたが，やや社会性に欠ける答案があった。「ネット選挙」の問題点を「民主主義の基盤強化」に結び付けるためには，日本社会に潜在する問題点について言及すべきであった。一つの事例における問題を，社会全体を俯瞰した視点によって，発展的に捉える練習をしよう。

【500～600 字で段落分けしていない答案の講評】

単一の事柄について，延々と論じている印象がある。文章が展開しないので，どのような考えが述べられているのかが把握しにくい。このような答案は，意図した内容をくみ取ってもらえる可能性が低い。段

落に区切り，文章の論理構造を示すことによって，はじめて相手に理解してもらえる答案になるということを肝に銘じておこう。

【指定字数に満たない答案の講評】

　この場で言及するまでもなく自覚できていると思うが，指定字数をクリアしなければ，スタートラインに立てない。限られた時間の中で，どのように論述していくべきなのかを考えるようにしよう。

【採点基準】

名大進学模試の小論文は，基本的に，「①設問の理解／②表記のしかた／③表現／④主張・論点」という４項目について，各問の配点を

①設問の理解　30%

②表記のしかた　20%

③表現　20%

④主張・論点　30%

の割合で配分したうえで，それぞれの項目ごとの評価を裁定し，その評価による得点を算出し，それを集計する。

評価は各項目「A とても満足できる／B やや満足できる／C 努力が必要である／D とても努力が必要である」の４段階とする。今回の問題における具体的な点数配分は，下記の通りである。

問１・問２共通　配点表（満点　問１：50 点　問２：50 点）				
	A	B	C	D
	とても満足できる	やや満足できる	努力が必要である	とても努力が必要である
①設問の理解（30%）	15 点	10 点	5 点	0 点
②表記のしかた（20%）	10 点	7 点	3 点	0 点
③表現（20%）	10 点	7 点	3 点	0 点
④主張・論点（30%）	15 点	10 点	5 点	0 点

問３　配点表（満点　100 点）				
	A	B	C	D
	とても満足できる	やや満足できる	努力が必要である	とても努力が必要である
①設問の理解（30%）	30 点	20 点	10 点	0 点
②表記のしかた（20%）	20 点	14 点	7 点	0 点
③表現（20%）	20 点	14 点	7 点	0 点
④主張・論点（30%）	30 点	20 点	10 点	0 点

評価の裁定方法

①設問の理解

（１）　答案の文章量が「規定の字数」に達していないものについては，その文字数に応じてＣ評価またはＤ評価とする。ただし，この時点でのＣ評価答案は確定ではない。内容次第でＤ評価にランクダウンさせる可能性がある。

（２）　「規定の字数」に達しているものは，「設問で示されている条件」「解答内容として求められる要素」に，その答案がどの程度適合しているかを勘案し，Ａ～Ｄの評価を与える。前項（１）のＣ評価答案は，Ｄ評価になるかどうかを検討する。

「規定の字数」と評価について

今回の問題は，問 1＝250 字以内，問 2＝250 字以内，問 3＝500 字以上 600 字以内という設問条件となっている。これをもとに，問 1・問 2 については 8 割にあたる「200 字」，問 3 は「500 字」を最低限記述すべき分量であるとし，答案の文字数と評価について以下の通り定める。

問 1・問 2

124 字以下の答案	Ｄ評価
125 字以上 199 字以下の答案	Ｃ評価をスタートとし，Ｄ評価にもなり得る
200 字以上 250 字以下の答案	内容を検討の上でＡ～Ｄの評価を与える

問 3

249 字以下の答案	Ｄ評価
250 字以上字 499 以下の答案	Ｃ評価をスタートとし，Ｄ評価にもなり得る
500 字以上 600 字以下の答案	内容を検討の上でＡ～Ｄの評価を与える

②表記のしかた

（１）　「①設問の理解」と同様に，文章量が「規定の字数」に達していないものについては，その文字数に応じてＣ評価またはＤ評価とする。ただし，「②表記のしかた」についても，この時点でのＣ評価答案は確定ではない。後に示す「チェック項目」の該当数次第でＤ評価にランクダウンさせる可能性がある。

（２）　「規定の字数」に達しているものは，答案の内容に応じてＡ～Ｄの評価を与える。前項（１）のＣ評価答案は，Ｄ評価になるかどうかを検討する。

チェック項目は下記の４点。

1	原稿用紙の使い方
2	段落設定の適切さ
3	句読点の適切な使用
4	誤字・脱字・衍字の有無

該当するものの数（ポイント）によって，

Ａ　０　／　Ｂ　１～２　／　Ｃ　３　／　Ｄ　４

と判定する。

ただし，該当するポイントが少なくても，誤字・脱字・衍字の数が多ければ，

～５はＢ　／　～１０はＣ　／　それ以上はＤ

と判定する。

※問１・問２については書き出しの １ マス目を空けていても，空けていなくても可で，チェック項目に該当しない。問３は，段落を分けて書くことを前提としているので，空けていないものはチェック項目に該当する。

③表現

（1）　「①設問の理解」「②表記のしかた」と同様に，文章量が「規定の字数」に達していないものについては，その文字数に応じて，C評価またはD評価とする。この項目「③表現」についても，この時点でのC評価答案は確定ではない。「不適切と判断される表現」の数次第でD評価にランクダウンさせる可能性がある。

（2）　「規定の字数」に達しているものは，答案の内容に応じてA～Dの評価を与える。前項（1）のC評価答案は，D評価になるかどうかを検討する。

「③表現」の評価は，「不適切と判断される表現」の数（ポイント）によって，

問1・問2については	A　0	／B	1～3／C	4～6／D	7以上
問3については	A	0～3／B	4～7／C	8～11／D	12以上

とする。

④主張・論点

この項目は，問われていることに対する回答としての論理性（どのような論理によって回答しているか）と，論点（問われていることに対する回答の骨子が明確に抽出できるか）を評価する。論理性については，いかなる論理を構築していても，それが設問の答えとして不適切であれば，低い評価を与える。また，なるべくシンプルな論理で明快に回答しているものを最上級と考える。

この項目では，「規定の字数」に満たない答案についても，文章量によるマイナス評価をしない。

★問3では，冒頭の1マス目を空白にしないで，かつ，解答全体を1つのかたまりとして記述している「段落を設定する意図が感じられない答案」について，評価点を半分に減じる。